

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
障害児指導法演習Ⅱ Method of Teaching Children with Disabilities II		2年	後期	月曜日・4時限
単位数	授業の形態		授業の性格	
1単位	演習		選択 (保育士養成課程選択必修)	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
障害児保育Ⅰ・Ⅱ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
障害児理解演習Ⅱ				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
小竹利夫	講義棟2階	月・火・水・木の8時～18時	授業中に指示します	
授業の概要				
子どもや障害者の気持ちに自ら気づき、子どもや障害者がより良い生活を送れるような保育や支援の仕方を自ら考える。また、子どもや障害者に適したおもちゃや教材を自ら考えて手作りする。				
授業の到達目標				
①人の行動の奥にある気持ちに自ら気付くことができるようにする。 ②子どもの目線に立ち、子ども一人ひとりに合わせた保育をすることができるようにする。 ③様々な障害者に対して、気持ちに寄り添った支援をすることができるようにする。 ④子どもや障害者に適したおもちゃや教材を自ら考えて製作することができるようにする。				
授業の方法				
ビデオや文字資料を使って事例を紹介し、具体的に進める。毎回、小レポート提出。また、おもちゃや教材を手作りする。				
学習の成果				
①人の行動の意味や気持ちに自ら気付くことができる。 ②子ども一人ひとりの目線に立った保育をすることができる。 ③様々な障害者に対して、気持ちに寄り添った支援をすることができる。 ④子どもや障害者の発達に適したおもちゃや教材を自ら考えて製作することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス。(授業の内容：進め方：評価の仕方)			
第2回目	乳幼児の言葉の発達(誕生から1歳)。子どもがコトバを獲得していく映像を通して、様々なコトバの育ちを学ぶ。			
第3回目	乳幼児の言葉の発達(1歳から1歳7か月)。子どもがコトバを獲得していく映像を通して、言葉を話す条件を学ぶ。			
第4回目	手作りおもちゃや教材を紹介し、作り方や使い方を学ぶ。			
第5回目	実習を振り返って、省察する。			
第6回目	障害児に対する援助の仕方を学ぶ。(身振り・写真・指文字・文字で伝える)			

第7回目	障害児に対する援助の仕方を学ぶ。(身振り・絵単語・口型図で伝える)		
第8回目	おもちゃ・教材作り①。(自ら考えておもちゃを手作りする)		
第9回目	障害児に対する援助の仕方を学ぶ。(文字を支えに言葉を話す)		
第10回目	児童養護施設の仕事を理解し、子どもへの接し方を学ぶ。		
第11回目	おもちゃ・教材作り②。(単語構成教材)		
第12回目	障害者施設の仕事を理解し、障害者への接し方を学ぶ。		
第13回目	保育園や幼稚園の仕事を理解し、子どもへの接し方を学ぶ。		
第14回目	実習エピソード集を読み合わせる。		
第15回目	まとめ。		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		50%	授業を集中して聞き、質問に対して積極的に答える。おもちゃや教材作製に熱心に取り組む。
レポート		50%	毎回授業の課題に沿って小レポートを提出する。授業の内容を理解した上で、自分の考えを展開することが求められる。
調査報告書			
小テスト			
中間・学期末試験			
発表内容(態度含む)			
その他			
教科書と参考図書			
適宜資料を配布。			
履修上の心得・ルール			
私語禁止。飲食禁止。			